

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

「教える教育」から「学ぶ教育」への転換



イギリスのオープン・ユニバーシティ(遠隔教育専門の大学)が、2004年のSunday Times University Guideで、オクスフォードよりも上の全英5位にランキングされたという話を聞いたことがある。オープン・ユニバーシティは、テクノロジーを活用して高等教育をより多くの国民に提供することを目的として1971年に設立された大学で、現在、20万人が受講している。日本で言えば、放送大学のような大学が全英5位という上位にランキングされたのだ。

オープン・ユニバーシティでは、教育分野の専門家、メディアプロデューサー、デザイナー、エンジニアなどがチームを組んで質の高いコースを開発し、提供している。それも上位ランキングの要因であろうが、大衆が高等教育を受講し、知識やスキルを身につけようとするニーズが高まっていることも見逃せない。高等教育のユニバーサル化・生涯学習時代の到来である。

2月のLTセミナーで招聘する西之園晴夫先生が代表をされているNPO法人「学習開発研究所」のウェブサイト(<http://www.u-manabi.org/>)によれば、ヨー

ロッパで進められているボローニャ・プロセスと呼ばれる改革は、変動社会や国際化に対応するために教育レベルを統一することを推進しており、その際に協調、自律、責任などをキーワードとして「教える教育」から「学ぶ教育」へと転換し生涯学習社会に移行しつつあるようだ。我々、大学で教育に携わる者は、このような社会の動向と無縁ではいられない。

「学習開発研究所」のウェブサイトでは「学ぶ教育」の実践も紹介されている。チームに個を生かす協調自律学習では、「個性」と「我」の違いや「チーム」と「グループ」の違いを学習者が認識するように仕向けたり、アイスブレイキングゲームを導入したり...とその方法も興味深い。教育内容や分野が異なる場合でも、協調自律学習の教育方法は大いに参考になる(渡辺博芳)。

2月のLTセミナーは、2月13日(水) 15:00から帝京大学宇都宮キャンパス 本部棟2号館 101教室において開催されます。ぜひご参加ください。

お知らせ

◆ 2月のLTセミナー

2月のLTセミナーは以下の2件を予定しています。詳細はLT開発室のウェブサイトや学内掲示のポスターをご覧ください。

☆ 「教える教育から学ぶ教育への転換はなぜ必要か?—ヨーロッパ諸国が授業料無償を堅持する背景とその方略—」

- ・日時：2月13日(水) 15:00~17:00
- ・会場：本部棟2号館1階 101教室

☆ 「キャリア教育を考えるPart2

産学官連携IT人材育成プロジェクト 2007年度の成果と今後」

- ・日時：2月26日(火) 13:30~
- ・会場：本部棟2号館1階 101教室

◆ 第4回WebCT研究会 報告

日本WebCTユーザ会の主催する第4回WebCT研究会が、2007年11月16、17日に阿蘇プラザホテルにおいて開催されました。本学からは、古川文人助教、及川芳恵技術職員がそれぞれ発表を行いました。

◆ 平成19年度 情報教育研究集会 報告

大阪大学の主催する平成19年度情報教育研究集会

が、2007年11月9、10日に大阪大学コンベンションセンターにおいて開催されました。開会式では、本学 渡辺博芳准教授の昨年の発表について、優秀論文賞の表彰がありました。

また、佐々木茂講師が発表を行いました。

◆ 情報処理学会 第7回CMS研究会 報告

情報処理学会の教育学習支援情報システム研究グループ(CMS研究会)の第7回研究会が、2007年11月30日、12月1日に福井県国際交流会館において開催されました。また、本研究会に引き続き、12月1日に「授業・学習の可視化シンポジウム」(CMS研究会主催)が開催されました。

上記3件についての詳しい報告はLT開発室のウェブサイトをご覧ください。

LT開発アシスタント(LTA)のススメ

LTAは、授業における教員と学生の活動を幅広く支援しています。先生方の周りで、LTAにふさわしい学生がいましたらぜひご推薦ください。詳しくは、LT開発室ウェブサイトの「ラーニングテクノロジー開発アシスタント制度」をご覧ください。

WebCT活用授業レポート

講義課目でのWebCTの活用



今回は、理工学部情報科学科の武井恵雄先生にお話をうかがいます。武井先生は、WebCT導入当初から活用されている方のお一人です。

LT どのようにお使いになっているのでしょうか。

武井先生 たとえば、授業時に電子的な教材を積極的に使い、授業後にスライドをWebCTに載せています。数年前からは、授業の前日か前々日くらいに「授業前公開」というスライドを提示しています。これは学生の要望でした。

LT うまく行ってますか。

武井先生 授業スライドの事前提示には不安もあったのですが、こうすると学生は、講義を聞くことに集中してくれますし、授業中の「作業」にも集中します。作業を導入することで、「学生が眠ってしまう」という弊害も除去できますし、仕上がったらみんなで見るということもできます。自分でやってみなければ、本当の理解にはなりませんからね。

LT どんな作業ですか。

武井先生 たとえば、人工知能という科目では迷路探索アルゴリズムを実行してグラフにする、形式言語学では構文解析をやる、といったことです。学生の作業が終わったあと、以前は黒板に図を書いて説明していたのですが、今はアニメーションをつけたパワーポイントのスライドを使っています。作業の後だと、学生は食い入るように見えますよ。

LT そのスライドも、「授業前公開」として提示するのですか。

武井先生 そこが大事なんで(笑い)、その部分はカバーをかぶせて提示します。授業後には、作業内容

も含めたスライドを出しますが、アニメーションがつかないpdf形式にしています。動きのある教材を見たかったら授業に出なさい、ということです(笑い)。

電子的な教材を使うと授業が楽でしょうと言われるますが、楽ではないです。事前準備はたいへんです。でも、きちんと授業設計ができますし、有効な課題を作ることもつながります。また、再履修の学生もいるので、年度によって実例を変えて、新鮮な気持ちで授業に臨むようにしています。

LT WebCTのテスト機能はお使いですか。

武井先生 今期末は、点数がつくテストをたくさん用意しました。誤答にもフィードバックをつけたテストです。学生が間違えそうなところに、丁寧な解説をつけると、どこでどのように間違っているのかを学生自身が知ることができます。

LT 先生はインターネット授業も始められたそうですね。

武井先生 今期は、人工知能の普通教室での講義を撮影し、並行してインターネット授業としても開講してみました。教職の学生が、他の授業と重なって履修できないことから始めたのですが、普通の授業と違って、学生からのフィードバックが取りにくく、うまく行ったかどうか、定期試験の結果を待ちたいと思います。

LT 時間割上の制約があって履修が難しい科目などでは、インターネット授業の開講によって、学生の選択の幅が広がりますね。どうもありがとうございます。

■ Tips ~WebCTメールや通知などを、普段使用している電子メールアドレスで受け取る~

☆WebCTで受信したメールを普段使用している電子メールアドレスへ転送する

- ・ MyWebCTの「マイ設定」で以下を設定します。
- 1. マイプロフィールの「プロフィールを編集」で転送先のメールアドレスを入力する
- 2. マイツールオプションの「メールの転送」で、『すべてのメールメッセージをマイプロフィールにある電子メールアドレスに転送』にチェックをいれる

☆課題が提出されたら通知が届くようにする

- ・ 課題の作成画面でメールアドレスを設定します。

☆ID・パスワードを忘れてしまった時に再発行をする

- ・ マイプロフィールの「パスワードを変更」で『秘密の質問』と『秘密の答え』を設定します。(前項メールアドレスの設定も必要です)
- 以上の設定で、ログイン画面の「ログイン情報をお忘れですか?」で秘密の質問に答えると、指定したメールアドレスにIDとパスワードが送信されるようになります。

☆アセスメントの答案のコピーを転送する

- ・ アセスメントの「プロパティを編集」でメールアドレスを設定します。

編集後記 つい先日、宇都宮にも雪が降りました。降り始めから積もったら雪だるまを作ろうとわくわくしながら過ごしていましたが、お昼過ぎにはやんでしまいました(泣)。毎年、雪が積もっては喜んでいましたが、だんだんと積もることが少なくなってきてちょっと残念です。寒い日が続きますので風邪をひかぬようお気をつけください(及川)



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇一般的なお問合せ: LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート: LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員: 武井 恵雄(室長), 渡辺 博芳, 古川 文人, 高井 久美子, 及川 芳恵, 柳田 京子

